

## 石垣ロータリークラブ週報

: 今月のロータリーレート \$ 1=110 円:



### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



地区ガバナー: 松坂 順一氏「研修と活性化」

◆クラブテーマ『ロータリーを楽しもう!』

国際ロータリー第2580地区  
今週のクラブ紹介

## 東京小石川ロータリークラブ

例会日時: 金曜日 12:30~13:30 例会場所: 椿山荘(藤田観光(株))

～ 誕生 1970年4月 ～

### 創立の経緯

東京北ロータリークラブ がスポンサーとなり、文京区のうち白山通りの西北側、旧小石川地区をエリアとして、当クラブが創立された。

1970. 4. 21 国際ロータリー加盟承認 29名のチャーターメンバー  
1970. 6. 20 認証状伝達式 プリンズホテル

### クラブの特徴

当クラブのエリアには、歴史的な遺産が多く有り、文化の薫り高い地域と言われている。出版、印刷、商業、美術館、建設、芸能等々幅広い職業に分類される会員がいる。

創立当時からの「親睦を深める楽しいクラブ」の伝統を受け継いでいる。留学生の受け入れ。少年野球の後援。「図書館の学校」後援。残紙の贈呈。書籍の贈呈。等々の事業を継続している。ゴルフ会、スキー会、囲碁会、食事会等、自由参加の会がある。例会場の環境も、極めて良好である。食事も旨い。



大浜 一郎氏 7日 宮良 幸男氏 13日 大田 次男氏 14日 南波 正幸氏 29日



会長: 遠藤 正夫 副会長: 橋本 孝来 幹事: 池城 貞光 副幹事: 大田 次男

例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 アートホテル石垣島 (0980) 83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX (0980) 83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

《第31回 2月27日(水)例会報告 (通算2825回)》

ゲスト卓話

＜司会進行＞東上里 和広

＜出席報告＞

ロータリーソング:奉仕の理想 四のテスト

ソングリーダー :我那覇 宗膳

ビジター:寒河江RC:鈴木一作・多鶴子夫妻 東京東江戸川 RC:  
嶋村文男氏 春日部西 RC:千葉和枝氏・岩上暢夫氏・中野重雄  
氏・金子英明氏・佐久間竜一氏・永田雄治氏

メイクアップ:新賢次 前原博一 大田次男 森田安高

会員総数 :44名

出席義務会員:43名

出席席数:23名

欠席数:20名

出席率:53.48%

通算出席率:52.71%(2月)

本日のニコニコ

\*鈴木 一作:石垣 RC に来訪できて

\*嶋村 文男:一年ぶりのメーキャップです。国際ロータリー第 2800 地区鈴木一作直前ガバナーをお連れしました。3/1からの南城市での RYLA ご協力に感謝致します。

\*春日部西 RC:私共の 35 周年パーティーに多くのメンバーの皆さまにご出席いただきましてありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。

\*遠藤 正 夫:鈴木一作直前ガバナー、春日部西 RC の皆様、本日はありがとうございました。

\*橋本 孝 来:鈴木様、ビジターの皆様、本日はありがとうございました。

\*仁 開 一 夫:鈴木ガバナー、春日部西 RC の皆様、メイクアップ有難うございます。

\*南波 正 幸:春日部西 RC の皆様、毎年メーキャップありがとうございます。

\*今西 敦 之:鈴木パストガバナー令夫人、本日はよろしくお願ひ申し上げます。春日部西 RC の皆様、東京東江戸川RC 嶋村様、ようこそおいでくださいました。

\*新城永一郎 :会社創立 47 周年(2/11(火))社員に感謝!

\*上原 晃 子:今年初めてのロータリー例会出席です。皆様新年おめでとうでございます。(笑)

◆BOX ¥24,000 (累計¥134,000) ◆コイン ¥4,462 (累計¥71,065) 合計¥204,065

会長挨拶:遠藤正夫



皆さんこんにちは。今日は夏みたいな気温でいい天気になりました。山形県から直前ガバナーの鈴木一作さん、嶋村さん、春日部西 RC の皆さん、こんな暖かい日によろそおいでくださいました。鈴木さんは私の生まれた町のロータリーの先輩でありまして、私も山形県寒河江市出身です。その寒河江 RC の直前の山形地区のガバナーということで、一昨年知り合いました。私の従兄弟も地区幹事をやっているという事で色々とお世話になっております。今日は卓話もしていただけるということですのでよろしくお願ひいたします。先週、地区大会へ参加された方いろいろとご苦労様でした。ありがとうございます。二次会で東京上野 RC と懇親を深めて来ました。また、4月に東京上野 RC の皆さんが石垣の方に見えますのでその時はみんなで歓迎したいと思っております。今日はみなさん楽しんでいってください。

春日部西 RC:中野重雄様

皆様こんにちは。石垣 RC の皆さんには昨年度、私どもの 35 周年の記念式典に大勢の参加を賜わりまして誠にありがとうございました。実行委員長の方からお礼を申し上げるよう言われて来ました。本当にありがとうございました。年に一度、千葉和枝団長を筆頭に押しにかけてくるという事が恒例になっております。次時年度に千葉和枝会長になる予定です。石垣もその時は 60 周年ですね。何とか石垣 RC の皆様のお力添えをいただきまして、千葉和枝を会長にさせていただくと有り難いと思っております。よろしくお願ひいたします。

ゲスト卓話:鈴木一作直前ガバナー

国際ロータリー第 2800 地区 寒河江 RC



◆テーマ◆ 私の考えるロータリー

昨年度のガバナーをさせていただきました寒河江 RC の鈴木一作と申します。今日は女房と二人で押しかけて来ました。沖縄は私ども夫婦の新婚旅行で来ており石垣島とも縁があると思っております。

第 2800 地区山形県ではこんな風にロータリーを考えているという事をお話したいと思います。最近よく耳にする言葉で「ロータリーは世界的な奉仕団体である」というのがあります。勿論、間違っておりません。しかし、これはロータリーを正しく語った表現ではないと私達は思っています。ではロータリーを正しく語るとすれば、尚且つ簡潔に語るとすればどんな風になるか「ロータリアン同士の親睦を基盤に立派なロータリアンを育てながら価値ある奉仕を通じて社会に貢献する世界的な団体である」とこういう風にすれば我々は大体納得する。ロータリーの三要素が絶対に入っていないといけないという事です。ロータリーの三要素はロータリアンの親睦そして立派なロータリアンを育てるという意味では学びです。勿論、価値ある奉仕という点で親睦、学び、奉仕これが我々 2800 地区山形県のロータリーの神髄であります。親睦、学び、奉仕という三つは日本人ロータリアンなら大体この感覚は持っていると思いますが、この感覚を日本の皆さんどの人も同じように思っているのは 1923 年-24 年度の RI 会長ガイ・ガンディカーのお陰と言うと結構知らない人が多いです。ポール・ハリスは誰でも知っていますが以外とガイ・ガンディカーって聞いた事ないという方が多いかと思えます。実はガイ・ガンディカーこそ日本のロータリーの神髄、姿、形をつくった人だという風に思っております。この方はロータリーの一般奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化した史上初めての「ロータリーの通解」(A Talking Knowledge of Rotary)というのを 1916 年に出版しています。その時に全分野の職業人を対象とするロータリーの倫理訓、俗に言う職業倫理訓とかと一緒に出しています。これを日本では米山梅吉が話している裏にあるのは全部ガイ・ガンディカーです。勿論、その後の巨大なロータリアンの方々の頭の中にある根幹はやっぱりガイ・ガンディカーです。従ってガイ・ガンディカーの考えが日本に根付いているという事があります。彼はロータリーの親睦についてこんな風に言っています。「ロータリーの苗木が成長する為はその根に栄養を与える土壌、それが親睦である」と。即ち親睦があつてこそロータリーという苗木が育って行くんだと、花開いて行くんだという風な考え方を持っています。そしてロータリアンに対しては人間性の向上を求めます。そしてロータリアンの仕事においては事業、職種、業界の発展向上を求めます。社会に対しては世の中を良くしていく向上運動としてロータリーは捉えています。そして RC はそうしたロータリアンを訓練、学ばせていく為の場であると。ロータリーの究極の目的は素晴らしい真のロータリアンを育成する事である。これがガイ・ガンディカーの考え方です。ロータリーを語る時に最低限押さ

なくてはいけないのは親睦と学びと奉仕だという風にご理解いただければいいと思います。まず親睦ですが、よく言われるのは親睦と奉仕は車の両輪だと、これは違うんです。親睦と奉仕は勿論大事です。大事だからこそ車の両輪だという言葉を使うと思いますが、でも違うんです。あくまで寝っこの親睦なわけですから親睦が基盤だと、そして立派なロータリアンを育てていながら価値ある奉仕をしていくそれでロータリーの苗木が成長していくわけですから、けして親睦と奉仕は車の両輪ではなくあくまで親睦はロータリーの基盤であると、そしてロータリーの親睦の目的は成長、発展の為にあるんだというのが大切だと思っております。もう一つ親睦について誤解されている所をお話ししようと思えます。親睦 Fellowship をそのまま日本語に訳した言葉ですが、これは間違っています。よく似た言葉に Friendship という言葉あります。親しい友人の間柄で使われる言葉。目的や理念は関係なく心の触れ合いを Friendship 仲良し、友情、親睦というんです。ところがロータリーでは Fellowship を使っています。これは志が同じ仲間、連帯感、そういう事が前提でチームや組織、団体など目的や理念が同じ者同士の間柄で使われる言葉、これが Fellowship です。例えばサッカーの日本代表、彼らがお互いのチームは Friendship ではなく Fellowship です。そうするとロータリーの Fellowship は目的がちゃんとあると、志しがちゃんとあるというのが前提。安心とか、信頼とか敬愛とか助け合いとか志しが共になっているからこそ保証されるという事でありまして。親睦というのは日本語ではあくまで Friendship という気持ちを持っている方が多いですが、実際には Fellowship の深い意味があるんだという事を頭に置いて親睦という言葉これから使っていたいただければ有り難いと思います。学びは誰もが分かるように例会です。ガイ・ガンディカーは例会について「会員の事業、行き方に有益な情報や方法を提供する場である」と。今日来て良かった、仕事の役にたつたとこれが絶対に必要だと、或いは自分の人生設計にこれからの行き方に、今日の話は自分にとって心を凜とさせて明日からの行き方を変えさせてもらうものだったという事でなければならない。そして会員同士が意見や情報を交換し、経験を語り合い誠実な人柄に触れ、敬愛の念を深めていく場でなくてはならない。即ち、真の意味でのロータリーの志しを持った者同士が友情を深めるものでなくてはならない。そして勿論、奉仕の心を学び、理解しそれを実践していく意欲を沸き立てる場でなくてはならない。自分の仕事や生活に役立つ事と同時に素晴らしい人に出会えることと同時に奉仕の心を実践に繋げていく意欲を沸き立てる、この三

つが例会になくはない、例会の三要素です。ロータリアンにとっては人間性の向上、仕事においては事業、職種、業界が発展向上、社会においては世の中が良くなって行く為の向上運動、ロータリークラブはその為の訓練、学びの場。何より大事なことはロータリーの究極の目的は奉仕ではないという事です。素晴らしい真のロータリアンを育成する事、これをガイ・ガンディカーは強く言っています。米山梅吉は一言で言ってロータリーの例会は人生の道場であるという風にお話されています。勿論、例会だけではありません。地区セミナー、地区大会、PETS、研修協議会そういった諸々ロータリアンが出会う場、そこには学びがなくてはならない、ロータリアンが出会い集う場というのは研修の場では無いんです。親睦の場なんだと、ロータリーの基盤、根っこを耕して良いロータリーという苗木を成長させていく、そういう風に理解して頂きたいと思えます。ロータリーには他クラブには無い特徴があります。ガイ・ガンディカーは述べています。それは教育的性格であるとはっきりと述べています。教育的性格というのは最近の RI の流れからいくと何か抜け落ちてきているんですが、これは大事ではないかと思っております。四つのテストで有名なハーバーと・テラーは「ロータリーは友情をつくり、人をつくる」ウィリアム・ロビンスは「ロータリーの第一の仕事は人づくりである」ということを述べています。私がロータリーに入って間もない頃に先輩から聞いてとても気に入っていますが「我々はロータリーの価値を何によって図れば良いでしょうか？クラブの規模や会員数によって図るのでしょうか？いいえクラブが如何なる人を育てかによって図る事ができるのです。それ以外に何がありましようや」ウィリアム・ロビンスのこの言葉を我々は強く噛み締めてロータリーをやっついていかななくてはならないと思っております。奉仕については価値ある奉仕に何が最も大切か、それは職業奉仕です。一番の理由はロータリアンの生活の大部分は職業を通じて社会に奉仕している時間だからです。日中の 15、6 時間その大半は職業に従事しているわけです。本人、家族、社員更に関連会社も含めて生活の糧を得ているわけです。職業奉仕が疎かなようでは社会奉仕も国際奉仕も満足に出来ません。人間的に信用出来ないし、経済的にも問題があるし、そういう人が社会奉仕や国際奉仕をやった所で人はついて行かないという事です。ラジェンドラ・サブーの言葉で「高い倫理基準を保持している職業奉仕を失うならばロータリーは地域の単なる奉仕団体に成り下がる」この言葉も非常に大きいと思えます。ロータリーが職業奉仕を大事にしている、それをロータリーの奉仕の根幹としているという事は、これを取ってしまったらよ

そのクラブ、地域団体と何処がちがうんだと、というところ確かにそうで返す言葉がないと私も思います。いずれにしても日本のロータリアンは職業奉仕に対する思い入れが大変強い。それは職業倫理訓、奉仕理念、四つのテスト、大連宣言、これらを好きな人が多いです。私が尊敬するパストガバナー達もこの話しはどの方も大体、一度や二度はされています。それを私達は自然と心に入るわけですが、それは DNA が関係してくると思えます。日本特有の商売道徳思想が根付いている。堀流水軒、石田梅岩、二宮尊徳、近江商人の三方良しとかの考え方が日本には根付いていて、それがロータリーの職業倫理訓、シェルドンの奉仕理念、四つのテスト、大連宣言がストンと受入れる事が出来るからではないでしょうか。因みに私は大連宣言が一番好きです。大連宣言の最初の方に書いてある言葉ですが「我、道義の職業人たらん」道を大切に義を大切にする職業人であろうとするという事が私もそれがロータリーの真の姿だろうと、おそらくそれは日本のロータリアンの誰もが持っている心意気なのではないかと思っております。奉仕の根幹はやっぱ職業奉仕だろうと思えます。だからと言って職業奉仕すべてという風には私は思っておりません。日本人は職業奉仕に対する思い入れが強すぎると私は思っています。強すぎるだけに職業奉仕を難しく語る人があまりにも多い。しかも解説する人によって話す内容が違うというのがあります。人によっては職業倫理こそ職業奉仕だと言う人もいますし、シェルドンの奉仕理念こそが職業奉仕だと言う人がいますし、四つのテストが全てだと言う人もいます。聞いている方は頭がこんがらがってきちゃう、解説する人によって話す内容が違う職業奉仕は非常に困るなと思っております。私はこれぞ職業奉仕というような一つの大木ではないのではないかと、むしろ大きな森と考えた方がいいんじゃないかと思っております。例えば高いところに生えている木々と低い所に生えている木々は違います。また、陽の当たる所の木々と当たらない木々違います。でも一本の木をもって一本の大木をもってその森全てを表す事は出来ないという事です。色々な木々が生えていてそれで一つの森だから。従って職業奉仕は木ではなく森なんではないかと。職業奉仕に対する考える方は間違いなく歴史上いくつもあります。けして一本の大木ではないと。職業倫理、職業は社会への奉仕、奉仕というのは世の中うまくやっついていく為の人間関係の基本。職業奉仕は顧客獲得の為の最善の経営方法。そして職業は天職であるという考え方。そして職業人としての社会奉仕。職業倫理というのは交友が尊敬と信頼を生む、だからこそ事業は成功する。シェルドンの奉仕理念は大きく分けて三つあります。一

つは職業はそれ全てが社会への奉仕だという考え方。奉仕というのは相手のニーズをよく汲み取りそれを最高の形で満たすようにするという奉仕の理念というそれが基盤にある考え方。そしてそれらを合わせた職業奉仕は顧客獲得の為の最善の経営方法。シェルドンは職業奉仕という言葉を使ってはいないんです。ビジネスメソッドという言葉しか使っていません。顧客奉仕の実践によって事業は成功し且つ永続すると、これが職業人の最高の目的だとその為の考え方、手段がシェルドンの奉仕理念、それに対して職業は定職であり、尊重すべきであり、崇高な職業、これはイギリスの考え方ですがそういう考え方を持って職業奉仕。職業人としての社会奉仕、自分の職業上の知識を手腕を社会奉仕に活かしましょうというのが職業奉仕。日本ではこの考え方を好まないベテランロータリアンが多いです。私がこの話しを 2800 地区内でするまではパストガバナー達はこの考え方を全く否定していました。最近では理解してくれるようになりました。何故かという職業人が社会に奉仕すればそれは職業奉仕だというのは日本人が今まで培ってきたDNAの中には入っていない考え方だからです。当然、受入れる事が出来ない、しかしこの考え方というのは標準RCの定款にしっかり書かれています。標準RC定款というのは守らないわけにはいかないんです。推奨RC細則はクラブの理事会で変える事は出来ます。しかし標準RC定款は受入れないと言ってしまえばそれはRIを脱退する事を意味します。従ってロータリアンである以上、RCである以上この考え方は受入れないといけない。もう一つ受入れなくてはならない理由は、この考え方は 1987 からあります。RIが打ち出してきたんです。「自己の職業上の知

識や手腕を社会の問題やニーズに役立てる」これは職業奉仕だという事を謳っているのが 1987 から出て以来ずっとRIの公式文書に記載されています。私は 1991 年にロータリーに入っています。私が入る前からこの考え方はあったはずですが、この考え方は教わりませんでした。よほど 2800 地区はこの考え方を嫌ってたんだと思います。私がロータリーに入ってよく説明を受けていたのは「大工さんが顧客の注文に応じて良い家を建てる」これは勿論、職業奉仕です。「大工さんが公園のベンチを使って市に寄付する。或いは大工さんが学校で児童に工作指導する」これは社会奉仕だと教わりました。でもこれは間違いです。1987 年以来、間違っています。社会奉仕でもあるけれども職業奉仕でもあります。私はパストガバナー達に言ってきました、奉仕に色はないと。社会奉仕、職業奉仕、青少年奉仕、分けて考えること事態意味がないと。職業奉仕は普段の日常の仕事だから勿論大事だけれども、私達が思いやりを持って奉仕作業をするのに色を分ける事に何の意味がありますか？とこの 10 年説いてきて最近やっと受け入れられるようになりました。ロータリーの目的第三にこう書いてあります。「ロータリアン一人一人が個人としてまた企業及び社会生活において日々奉仕の理念を実施、実践すること」即ち個人生活、事業生活、社会生活にロータリーで学んだ奉仕の理念を実践する事。それには水色でも黄色でも赤でもないんです。これはロータリーの目的第三はガイ・ガンディカーの考え方です。それは変わる事なく今も残されているという事です。これが私の考えるロータリーで 2800 地区が考えてきているロータリーだという事です。ご静聴感謝申し上げます。ありがとうございます。

### ～ 例会風景 ～



本日は沢山の方にご来会いただきました。ありがとうございました。



鈴木一作直前ガバナー卓話ありがとうございました。

